

# 2007年7月15日 朝日新聞

■人の動作を手本にエアホッケーを学び、人を負かせるまでになったロボットを作るなどして、ロボットから脳を知る研究をしていることを川人さんが紹介。羽生 人やロボットができるこの線引きはどこにあるのか。

川人 脳の中身を知らず、純粹に工学的な技術で発展してきたのがこの50年。脳科学は着実な勢いで進んだ。脳で何が起こっているか理解して口ボットに戻そうという機運になりつつある。

将棋の序盤、中盤、終盤を人工知能で実現しようとするなど、序盤は対局のデータベースで、終盤は力任せに手を読

■人の動作を手本にエアホッケーを学び、人を負かせるまでになったロボットを作るなどして、ロボットから脳を知る研究をしていることを川人さんが紹介。羽生 人やロボットができるこの線引きはどこにあるのか。

川人 脳の中身を知らず、純粹に工学的な技術で発展してきたのがこの50年。脳科学は着実な勢いで進んだ。脳で何が起こっているか理解して口ボットに戻そうという機運になりつつある。

将棋の序盤、中盤、終盤を人工知能で実現しようとするなど、序盤は対局のデータベースで、終盤は力任せに手を読

## 生活環境、脳の病変に影響



川人 光男氏

かわと・みつお 国際電気通信基礎技術研究所(ATE)脳情報研究所長。81年、大阪大学院基礎工学研究科博士課程修了。同大講師などを経て88年にATEへ。03年に現職。

■脳科学の急速な進歩で倫理問題も問わってきた。脳科学の行方について渡辺さんが問題提起。

川人 システム神経科学の目標は、脳のニューロンすべての活動を計測、制御して、構築した理論通りに人が動くのを確かめることだ。人の対処になるが、中盤が一番難しい。いい局面か悪い局面か、大局観を推定するの大切になる。脳のモデルはこの局面でどれほどの報酬が期待できるかを予測し、高いものを選んでいる。

ただ、できることは圧倒的に限られている。ごく一部しかわからない脳の仕組みを既存の工学技術と組み合わせるマップサイエンティストが出でてくるかもしれない一方で、それが確かに悩む人を助けたり、世の中に非常に役立つ可能性もある。一般の人を含めたシンポジウムをたくさん開いて、隠れて危ない研究をしていると言われないようにする必要がある。

池谷 人の直感は、何か新しい、わからないものが出てくると怖い感じるが、直感

## 仕組み、ロボットに戻す機運

■脳科学の急速な進歩で倫理問題も問わってきた。脳科学の行方について渡辺さんが問題提起。

川人 システム神経科学の目標は、脳のニューロンすべての活動を計測、制御して、構築した理論通りに人が動くのを確かめることだ。人の対処になるが、中盤が一番難しい。いい局面か悪い局面か、大局観を推定するの大

朝日新聞社より使用許諾済(転載厳禁)